

平成30年度土木学会全国大会参加報告

鈴木 敬一

SUZUKI Keiichi

川崎地質(株)
(本誌地下探査技術委員)



8月29日から31日にかけて土木学会全国大会が、札幌市の北海道大学工学部を中心に札幌市内で行われた。

工学部のある札幌キャンパスはJR札幌駅のすぐ北から始まるが、そこから南北方向に市営地下鉄南北線の北24条駅近くまでの地下鉄3駅分にまで広がった広大なキャンパスである。正門を入るとサクシュコトニ川が流れ、学生さんやご近所の方々の憩いの場になっている。さらに進むと、かの有名なクラーク像がある。

北大の中は歴史的建造物も多く、それ自体が見どころとなっているが、この調子で筆を進めると、会場にたどり着くまでに誌面が尽きてしまう。そのため、このあたりでキャンパスの紹介はやめることとする。

筆者の発表は初日の15時20分開始のセッションであった。午前中は山岳トンネルのセッションに参加しようと考えていたが、会場が広すぎて配置を把握するだけでもかなり大変であった。会場の端から端まで歩くと地下鉄ほぼ一駅分あり、徒歩12、3分という感じ

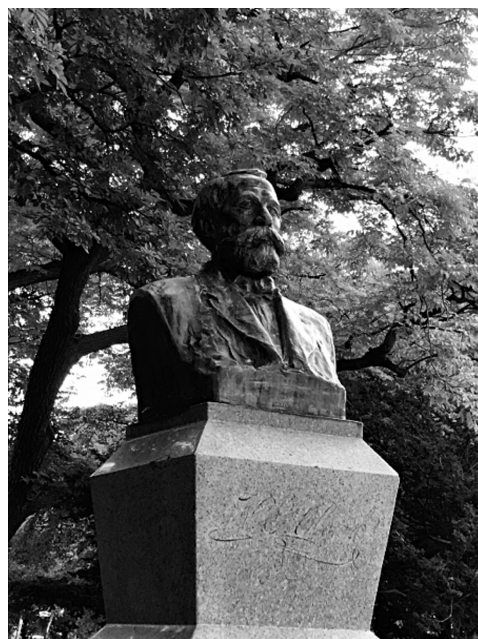
である。そのため、事前に自分の発表会場を確認しておこうと、事前にHPで公開されていたプログラムに記載されていた部屋に行ってみたところ、変更になっていることがわかった。変更された部屋は会場の最も南側の一角にあり、他の会場からの移動には非常に時間がかかる。土木学会に参加したとき（特に発表があるとき）には会場の確認を入念に行うことが必要である。

午後はスパースモデリングという画像再構成などに用いられる新しい手法を土木工学に応用しようという研究会があったのでそれに参加した。大変興味深く、今後の展開に期待が持てると感じた。

その研究会の会場から、自分の発表会場までは最も遠く、徒歩で12分ほどかかった。会場に到着し、プレゼン資料をインストールしてから、座長と発表者による打ち合わせを経て、いよいよセッションの開始時間となった。会場の入りは40～50名程度であろうか。



サクシュコトニ川の流れ



クラーク像

私の発表は最初で、タイトルは『「非開削地下探査技術適用の手引き（案）」のとりまとめ』であり、著者は地下探査技術委員長の斎藤秀樹氏、同委員会前委員長の網崎勝氏および（一社）日本非開削技術協会地下探査技術委員会である。

発表時間は7分+質疑3分、合計10分という短時間であり、発表したい内容をコンパクトにまとめる必要がある。

発表の内容としては地下探査技術委員会で作成した、手引きの紹介であるが、目的としては地下探査技術の普及と標準化である。標準化というと大げさであるが、技術の底上げや適切な利活用といったほうがしっくりする感じである。

質疑の時間には、会場からの質問はなかったが、座長から地下探査技術について、探査深度や分解能などをきかれた。これについては手引きの内容と矛盾しないように答えた（つもり）である。今回の発表では、日本非開削技術協会と手引書の存在を土木分野へアピールすることができたものと考えている。

次の日は、基調講演や特別講演、全体討論会に参加した。今年は明治150年、北海道命名150周年ということで、次の150年を考えることをテーマに様々な報告がなされた。また、札幌駅からすすきの方面の地下道にも土木学会の展示がなされていた。北海道の土木



発表会場前にて

150年と北海道の代表的な土木構造物や災害事例のポスター展示などであった。こちらも大変興味深く拝見した。

この度の発表では日本非開削技術協会の事務局や地下探査技術委員会の皆様には多大なるご支援をいただいた。ここに記して謝意を表する次第である。



バナー広告掲載のご案内

『工法ナビ』へのバナー広告掲載をご希望の方はNo-Dig Today編集室またはJSTT事務局までお問い合わせください。

広告のお申し込み・お問合せ

No-Dig Today 編集室

(株)LSプランニング Tel 03-5621-7850 Fax 03-5621-7851

JSTT事務局 Tel 03-5639-9970 Fax 03-5639-9975

非開削工法の普及を目指し設計をお手伝いする画期的サイト

■ 工法ナビ バナー広告掲載料金

掲載場所	掲載期間	掲載料金
TOPスペース	6ヶ月	60,000円
技術区分内スペース	上半期（4月1日～9月30日）	18,000円
	下半期（10月1日～3月31日）	

※広告掲載料金は1掲載当たりの金額です。（消費税別）